

果樹の病害虫の発生状況（5月下旬、リンゴ・ナシ）

令和7年5月29日

福島県病害虫防除所

ナシ黒星病の被害果やリンゴ褐斑病の被害葉が確認されています。ほ場での各種病害虫の発生状況や今後の気象情報に留意し、各樹種の生育に合わせて防除を徹底しましょう。

1 リンゴ

（1）リンゴ褐斑病

県北・会津地方では、5月下旬の新梢葉・果そう葉での発生は平年同様に確認されませんでした（図1、図2）。一方、県中・県南地方では、新梢葉・果そう葉での発生ほ場割合は平年よりやや高く、発生時期もやや早い状況でした。本病は、初期の発生の場合、斑点落葉病の類似症状を伴う場合が多いため、注意しましょう（調査で確認された病斑はいずれも類似症状でした）。

また、果樹研究所における子う胞子トラップ調査の結果、4月23日に初飛散が確認され、4月24日、5月12日にまとまった飛散が認められました（図3、5月21日現在）。例年、本病の子う胞子の飛散ピークは6月上旬頃となるため、今後も降雨の度に飛散が想定されます。

本病は、初発が早いと多発する傾向にあるため、一次感染期からの防除の徹底が重要となります。例年発生がみられるほ場では、落花30日後にアントラコール顆粒水和剤 500 倍を散布し初期の感染を抑えましょう。

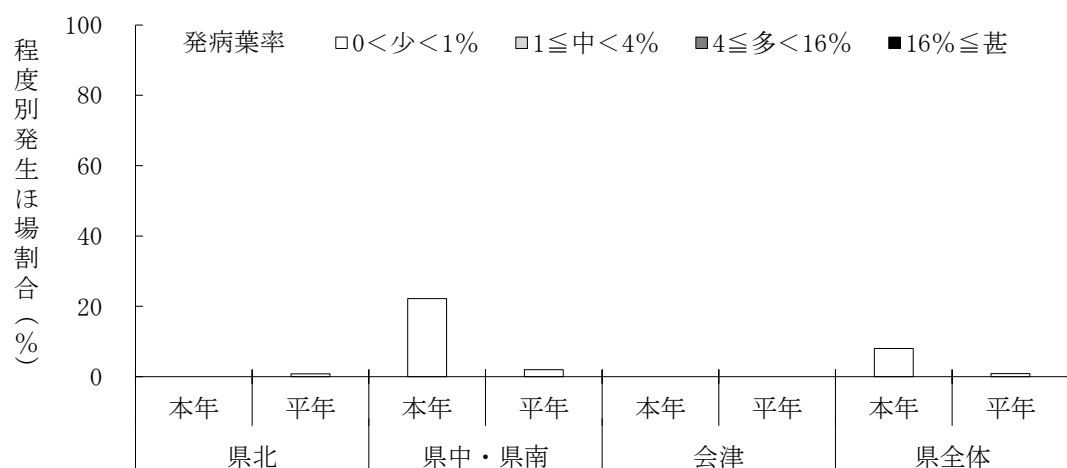


図1 リンゴ褐斑病の新梢葉での発生状況（5月下旬）

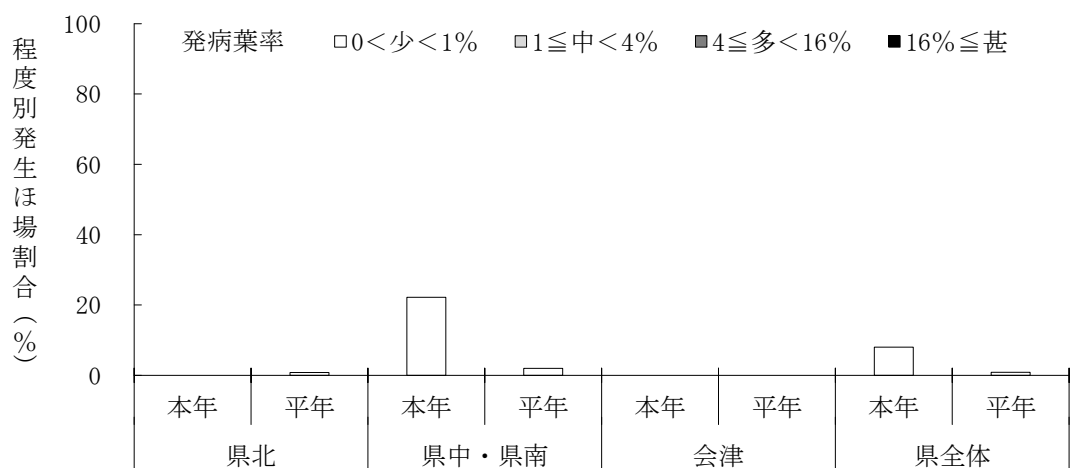


図2 リンゴ褐斑病の果そう葉での発生状況（5月下旬）

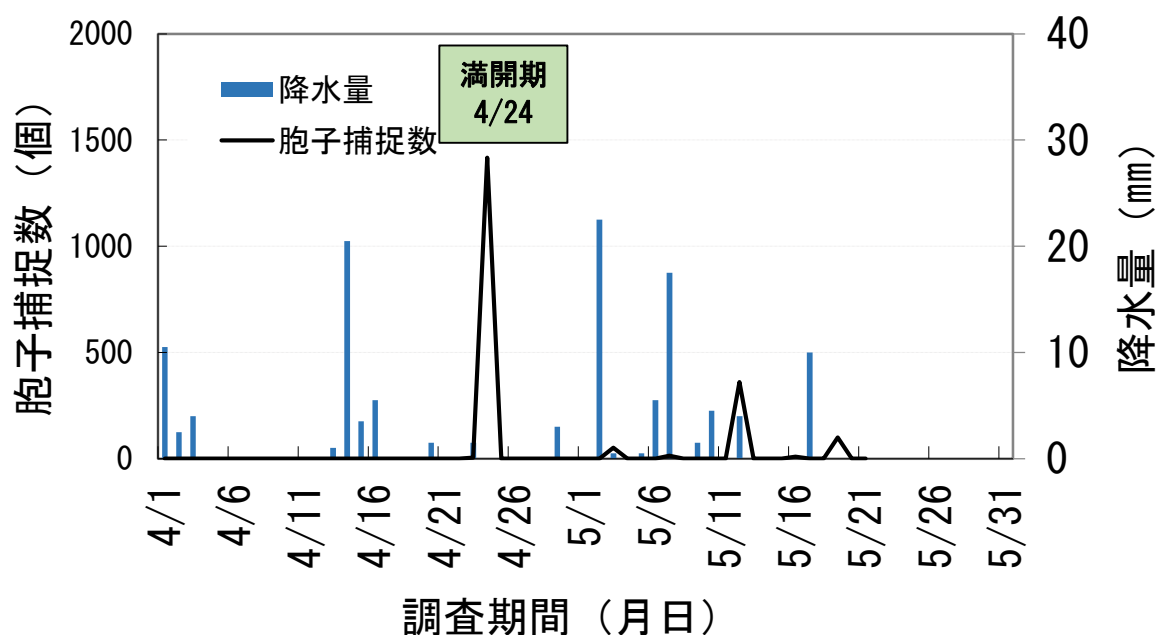


図3 リンゴ褐斑病の子のう胞子の飛散状況（5月21日現在、果樹研究所）

【リンゴ斑点落葉病との見分け方】

リンゴ褐斑病の特徴として、葉表の病斑上に分生子層（小黑点）が形成されます。このため、分生子層の有無を10倍ルーペ等で確認することで、斑点落葉病と見分けることができます（図4）。

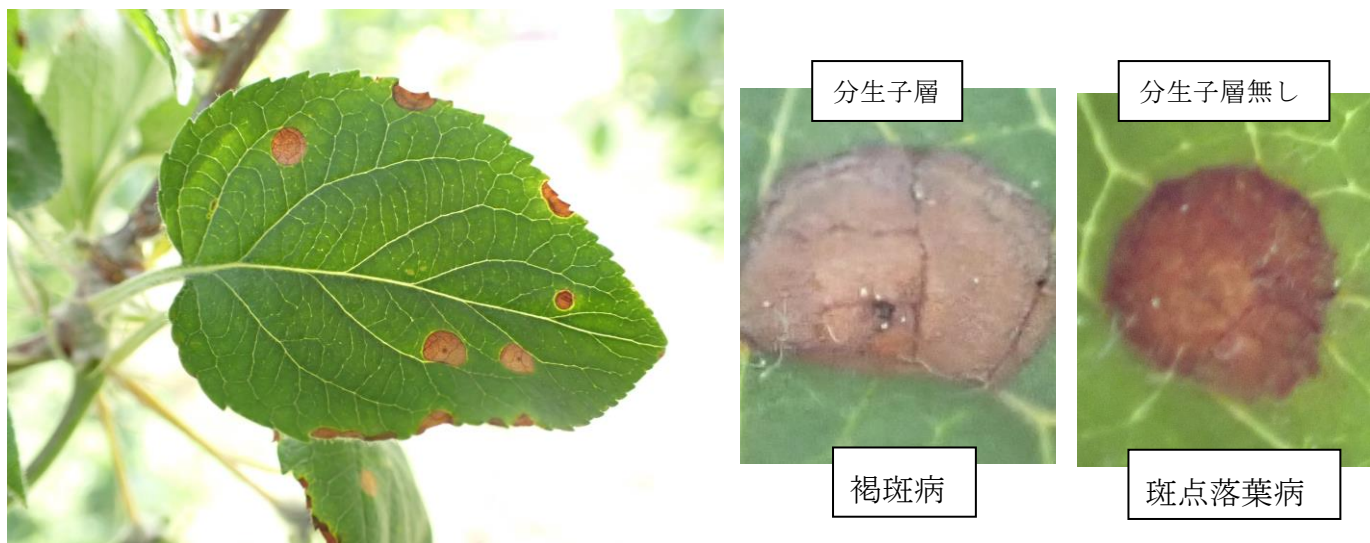


図4 リンゴ褐斑病とリンゴ斑点落葉病の見分け方

（2）リンゴ黒星病

会津研究所における子のう孢子トラップ調査の結果、5月中下旬にまとまった飛散が確認されました（図5、5月23日現在）。依然として孢子の飛散が続いており、今後の降雨でも飛散が続き、感染リスクが続くことが予想されますので、落花30日後の防除は、前回の散布から間隔を空けないよう注意しましょう。

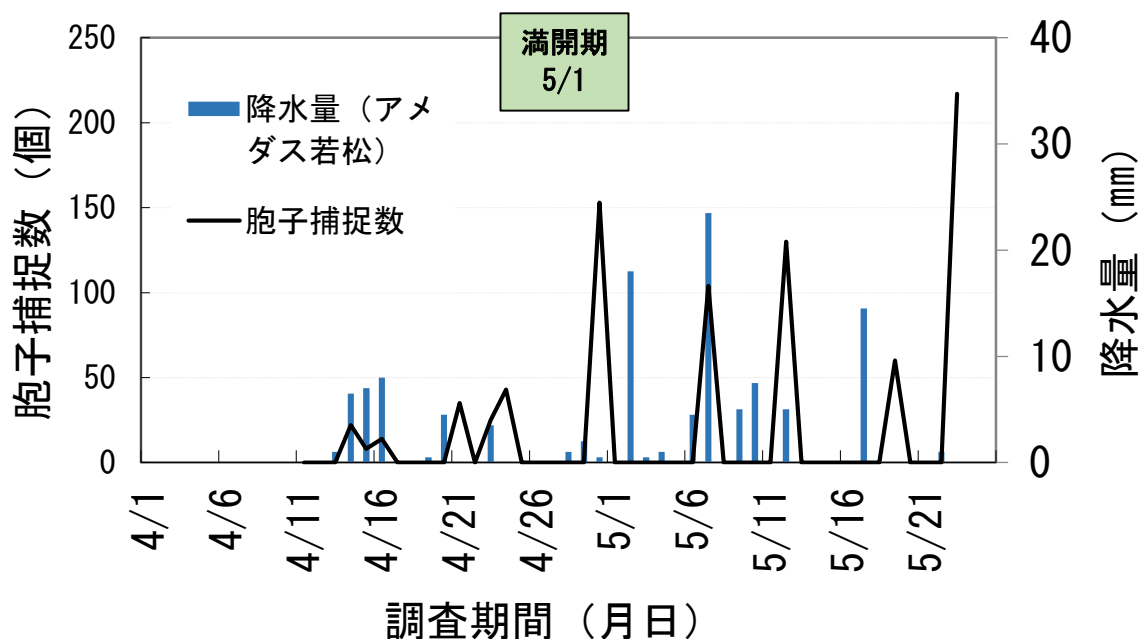


図5 リンゴ黒星病の子のう胞子の飛散状況（5月23日現在、会津地域研究所）

2 ナシ

(1) ナシ黒星病

中通り地方の5月下旬の果そう基部病斑の発生ほ場割合は、平年よりやや少ない状況でしたが、果実での発生（果面での発生が多い）が確認されたほ場が複数ありました（図6）。また、浜通り地方の5月下旬の果そう基部病斑の発生ほ場割合は、平年並でしたが、果実での発生（果面での発生が多い）が確認されたほ場が複数ありました。子のう胞子の飛散ピークの時期は過ぎたと考えられますが（図7）、すでに果実への一次感染が確認されていますので、果そう基部病斑の発生と併せて、ほ場での発生状況に注意しましょう。

発病した果そう基部・葉・果実は、見つけしだい除去することを徹底しましょう。今後、梅雨に入り、降雨の多い時期となるため、天候に留意して降雨前の散布を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう。特に、「幸水」では、果実の感受性が高まる時期（満開後50～90日）を迎えるため、防除を徹底しましょう。

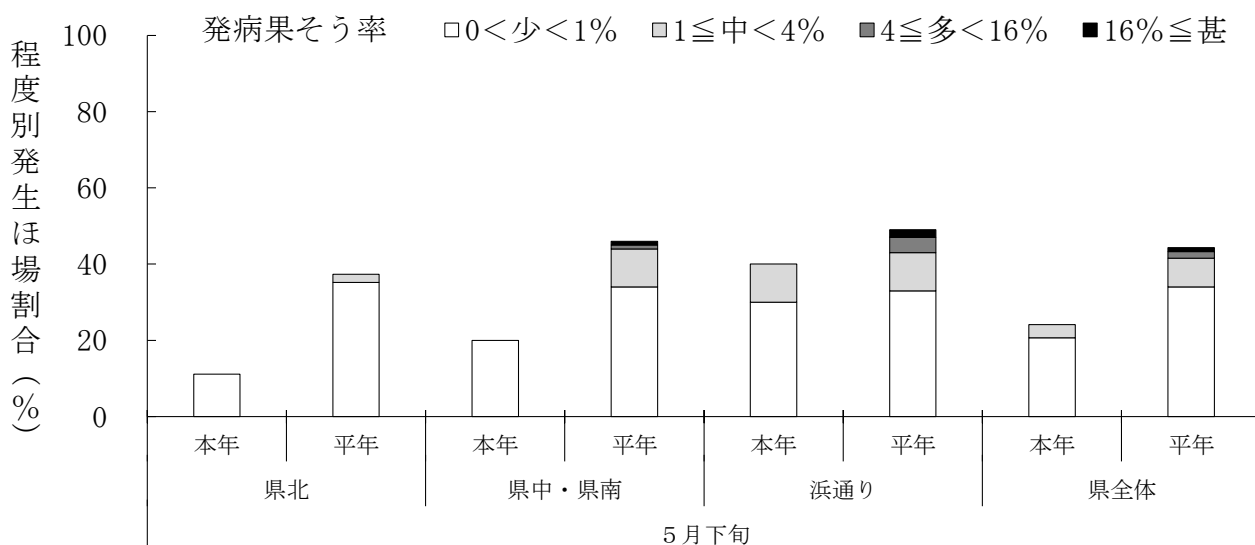


図6 ナシ黒星病の果そう基部病斑の発生状況（5月上旬、中下旬）

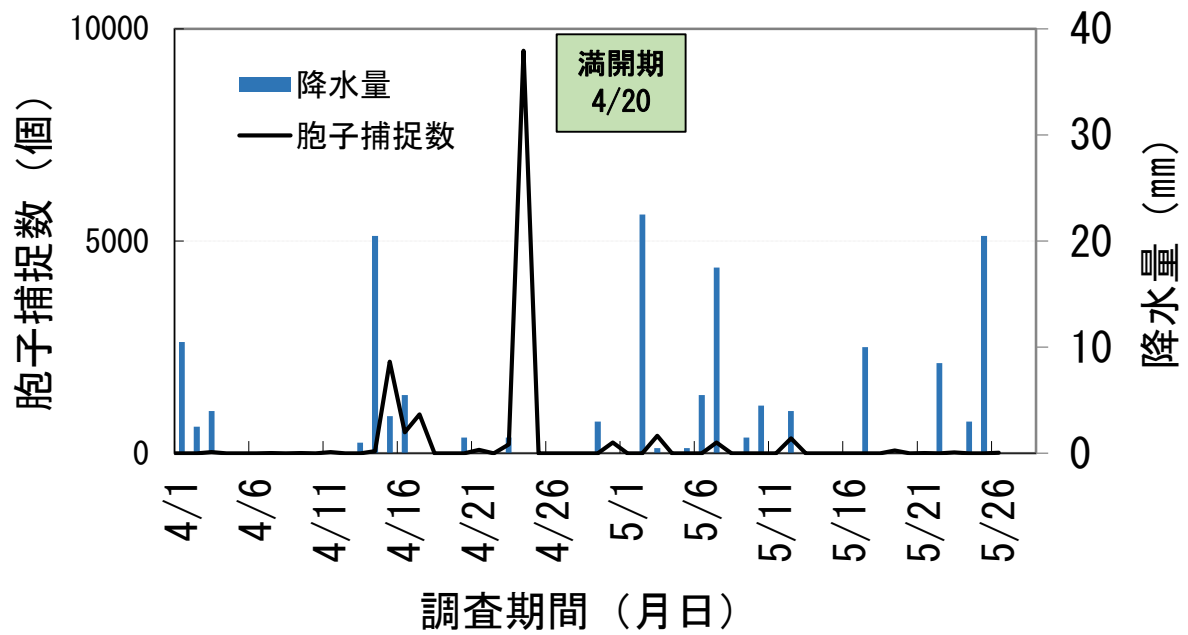


図7 ナシ黒星病の子のう胞子の飛散状況（5月26日現在、果樹研究所）

※モモハモグリガ・果樹カメムシ類については、防除情報をご参考ください（福島県病害虫防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。